

お忙しくても、約2分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

公共サービスは固定費型から変動費型へ

根本 祐二 (東洋大学経済学部教授)

土居 丈朗 (慶応大学経済学部教授)

1. 日本は1970年代にインフラを集中的に整備した。それから50年経った2020年代は「第2のピラミッド」と呼ばれ、大型のインフラ更新を迎える。にもかかわらず日本政府の借金は増え続け、人口は減っている。増大する更新投資、膨大な借金の返済、減少する税収。経営できるはずのない状況に自らを追い込んでいく。(根本祐二)
2. 今後、人が住むエリアは狭まっていくだろう。例えば、団塊世代が80歳代になる2030年代には病院へ「移住」する人が多くなる。また集落は人口が一定水準以下に減ると急速に不便さが増す。2030年代には集落を出て移住する人が加速的に増える。2020年代の10年間は、人が住むエリアをどこにするか、どのインフラを更新すべきか、しっかり考えることが課題になる。(土居丈朗)
3. そのときにカギとなるのは「固定費を変動費に変える」考え方だ。これからは、人口減に合わせて費用を減らせる変動費型にしていく必要がある。例えば、図書館を造るのではなく、移動図書館にする。自動車や船などに書籍と職員をのせ、地域を巡回し図書サービスを提供する。水も給水車で提供する。そうしたインフラづくりに民間企業も知恵を絞る。(根本祐二)

(参考:「週刊東洋経済」2020年2月1日号)

経営者のための危機管理

「ノイズに耳を傾ける」

パット・ゲルシンガー

(米IT大手VMware CEO)

1. 「ノイズに耳を傾ける」。私はこう呼んでいます。ノイズは重要です。誰もが同意しそうなことは、実際に皆が同意します。皆が同意することは、誰もが答えを知っているのです。しかし誰かが異議を唱えた場合、とりわけエンジニア、特にシニアエンジニアや尊敬する人が反対した場合、彼らは別の視点を持っています。これがとても面白い。
2. よくある例ですが、技術に不得手なマネジャーが問題を捉えることがあります。これはノイズを聞くことができないからです。不協和の意見を聞けないのです。皆が合意することしか話してもらえない。誰もがあなたの耳に心地よい意見ばかり言うのです。そして、いつだって聞きたくない話の方が重要です。そこからユニークな洞察が得られるのです。

(参考:「週刊ダイヤモンド」:2020年1月11日号)

経営者のための理念・哲学

教養とは直観力の根源となるもの

葛西 敬之 (JR東海名誉会長)

1. 私は法律と経済を大学で勉強しましたが、人間学というのは、一生を続けて積み重ねていく教養であると思っています。何でも手当たり次第にしようと拡散してしまうため、私は政治史、外交史、戦史、伝記を中心に関心を持ってきました。それが企業経営に大きく役立ったのではないかと感じています。
2. 経営で大切なものは人間を掌握することであり、合理化・正当性を見極めて自分自身や組織の方向を決めることなのですが、その際に法律学とか、経済学といった実学はもちろん基礎として必要であるものの、最後に鍵を握るのは大局観や長期展望です。これはどの業界にいても同じような形で必要となる一つの教養であると思います。教養というのは、思いつく様々な着想とかアイデアを現実のものにしていくプロセスの中で、血となり、肉となり、直観力の根源となるものです。

(参考:「致知」2020年3月号)

古典に学ぶ

宗教的観念、信仰等は、一に帰す

(解説) 私共の組織している帰一協会というのがある。帰一というのは外でもない。世界の各種の宗教的観念、信仰等は、逐に一に帰する期のないものであろうか。神といい、仏といい、耶蘇といい、人間の履むべき道理を説くものである。東洋哲学でも西洋哲学でも、自然些細な事物の差はあるけれども、その帰趣は一途のように思われる。

(参考: 渋沢栄一「論語と算盤」: 国書刊行会)